



こんだてメモ

平成29年1月

福生市学校給食センター



1年間の行事食について

あけましておめでとうございます。気持ちも新たに今年もがんばりましょう。日本には、一年を通してさまざまな行事の時に食べる行事食があります。その中からいくつか紹介します。

1月 正月 おせち料理



日本では昔からお正月をととても大切にしてきました。昔は、お正月が始まると家に年神様(お正月様ともいう)が来るといわれていました。そこで、おせち料理をかみさま、そな、かみさま、おな、神様に供え、神様と同じものを食べることで一年間を健康に過ごす力をもらおうと考えられていました。

2月 初午 油揚げ



初午とは、2月最初の午の日のこと。農耕の神様である稲荷神社で盛大にお祭りが行われます。稲荷神のおつかいがキツネだったことから、キツネの好物とされる油揚げをお供えます。いなり寿司が「いなりさん」と呼ばれるのは、このためです。

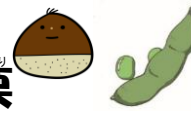
3月 桃の節句 ひしもち、はまぐりの潮汁



ひしもちの3色の色は、赤が春の花、白は雪、緑は大地の草を表しています。また、はまぐりの潮汁がよく飲まれます。はまぐりの2枚の“から”は対になっている貝以外とはかみ合わないことから、夫婦の仲の良さを表すとされています。



10月 十三夜 月見だんご、豆、栗



十五夜の約1か月後には、十五夜に次いで月が美しいとされる十三夜がやってきます。十五夜のようにお月見を行いますが、お供えの月見団子の数は13個になります。そのほか、この時期に収穫される枝豆や栗をお供えすることから、「豆名月」や「栗名月」とも呼ばれます。



7月 七夕 そうめん



平安時代、日本には、七夕に「策餅」という中国から伝わったお菓子を食べる風習がありました。策餅とは、小麦粉と米粉を練って縄のように細くねじったお菓子です。月日が流れ、現在の七夕では策餅が食べられることは少なくなりましたが、策餅がもとになったとされるそうめんが食べられるようになりました。

9月 十五夜 月見だんご、里芋



十五夜の月は、一年で最も美しいといわれています。十五夜の夜は、月見かざりとして、すすきや月見だんご(数は15個)を供え、お月見をします。そのほか月にちなんで里芋など丸いものを供えることがあることから、十五夜は「芋名月」とも呼ばれます。

12月 おおみそか 年越しそば



おおみそかの夜には、年越しそばを食べる習慣があります。もともと、江戸時代には月末にそばを食べる「三十日そば」という習慣があり、おおみそかにだけ、その習慣が残ったと考えられています。また、そばが細く長いことから、「寿命が細く長く続くように」という願いが込められています。